

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：72641

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24700937

研究課題名(和文)鳥類標本ラベル情報の不整合を文献資料から解読する研究

研究課題名(英文)Clarification of inconsistent label information of old bird specimens through relevant literature and archival documents

研究代表者

小林 さやか (Kobayashi, Sayaka)

公益財団法人山階鳥類研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：70414092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本の鳥類学の草創期に採集された鳥類標本群である、東京帝国大学動物学教室旧蔵標本群と東京帝室博物館旧蔵標本群を対象に、標本ラベルの不明瞭な記載を文献資料から明確にすることを目的とした。東京帝国大学旧蔵標本群では、最も標本数が多かった小川三紀収集標本群を調査した結果、採集期間が1874～1908年であり、採集日や採集場所が不明瞭であった350点の標本情報を明確にできた。東京帝室博物館旧蔵標本群では、9割もの標本で採集年次が不確定であったが、歴史的背景によって採集年次を限定することができた。明治、大正期に2つの国立博物館が収集した同標本群は、現存する唯一のナショナルコレクションと評価された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to clarify unclear label data of two old bird specimen collections, Tokyo Imperial University collection and Imperial Household Museum (IH) collection, from relevant literature and archival documents. These collections were made in the earliest stage of the Japanese ornithology. I investigated the specimens collected by Mr. Ogawa Minoru which were the most numerous in the Tokyo Imperial University collection. It was found that Ogawa's specimens were collected from 1874 to 1908. This study also clarified dates and localities of 350 specimens which were previously unclear. 90% of IH collection had unclear dates. This study narrowed down the year of collection by the collection history. The IH collection made by two national museums during the Meiji and the Taisho Periods was considered the only existing national collection of these periods.

研究分野：鳥類標本史

キーワード：鳥類標本 鳥類学 標本史 博物館 明治期 大正期

1. 研究開始当初の背景

生物標本は種を記載する際の証拠であり、その種の形態を示す。生物標本には、その生き物がその時、その場所に生息していた情報を記録するラベルが付けられる。この情報は、形態の地理的変異や、過去の生態系を知るために重要である。ところが、古い標本のなかには、保管場所が変わるたびに、それぞれで新たなラベルが付けられ、そのラベル間で採集日や採集場所などの情報に不整合が見られることがある (図1)。

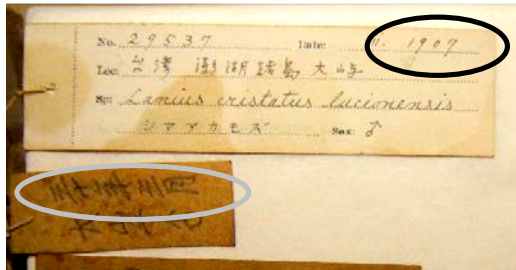


図1 標本ラベル間で不整合が起きている例 (YIO-26253 のラベル)。写真上のラベルは採集年が「1907」 (=明治40年)、下のラベルは「(明治)30年」と表記されている。

このままでは形態の地理的情報や過去の生態系についての情報は得られず、生物標本として価値が低いものとして扱わざるを得ない。しかし、現存している採集日誌や標本台帳、学術調査の報文などの文献資料と照らし合わせると、どの採集人が何年何月に採集を行ったときの標本であることがわかり、互いに異なる情報を示すラベルが付いている場合もある。

世界遺産に登録された小笠原諸島に固有のメグロ *Apalopteron familiare* は、現在は小笠原の母島列島にのみ生息するが、かつて父島で捕獲された標本が存在する。この標本ラベルには採集地が単に Bonin Island (小笠原諸島の英名) とだけされており、採集人が外国人であったために母島を父島と取り違えたのではないかと推測されたことがあった。Suzuki & Morioka (2005) は記載者に関連する文献を調査し、1800年代に記載者が父島で観察していた記録を見つけた。これにより、メグロはかつて父島にも生息していたが、今日では絶滅していることが明らかとなった。この例は文献調査によって標本の採集地を明確にした好例であり、同時に採集人がどのような採集行を行ったかといった当時の時代背景をも明らかにした。

山階鳥類研究所は約7万点の鳥類標本を所蔵しており、国内では最大の鳥類標本コレクションである。採集年代は1800年後半からと古く、国内のみならず東アジア地域を中心に収集されてきた。歴史が古い標本ほど、複数のラベル間で情報の混乱がみられ、生物標本として価値が低く扱われている標本もある。明治・大正期の鳥類標本は、日本の鳥類学の草創期に収集され、タイプ標本など学

術上重要な標本が含まれるだけでなく、採集されてから時間の経過とともに生息地や形態などに様々な変化が生じている可能性もあり、生物学的にも鳥類学の歴史を知る上でも重要な標本である。論文など関連する文献が残されている場合もあり、標本ラベルと文献や史料を照合することで、本来標本が持っていた情報を復元できるかについて検討した。

2. 研究の目的

本研究では明治・大正期の鳥類標本群を対象に、標本ラベルの不整合、あるいは不明瞭な記載について文献資料から明確な情報を見だし、情報の不整合や不明瞭さが不明瞭な標本においても、文献によって情報を担保することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究計画では、山階鳥類研究所に所蔵される明治・大正期の鳥類標本群を調査対象に、以下を行った。

- 1) 山階鳥類研究所標本データベース (<http://decochan.net/>) によって、標本の記載情報やラベル画像からラベルの様式などの情報をリスト化した。また、標本群ごとに関連する文献や、現存する標本台帳を見出した。
- 2) 文献とリスト化した標本情報の照合によって、採集日や採集場所が混乱している場合にはその内容を整理した。また、標本群ごとに鳥類学史上の位置づけについて考察した。

4. 研究成果

本研究では、明治・大正期の2つ鳥類標本群について検討した。

1) 東京帝国大学動物学教室旧蔵標本群

日本の鳥類学の草創期に活躍した飯島魁 (いじま・いさお)、小川三紀 (おがわ・みのり)、波江元吉 (なみえ・もとよし)、アラン・オーストンらによって収集された標本群で、約2,000点を山階鳥類研究所で保管している。この標本群の中から最も点数の多い、小川三紀によって収集された標本群について調査した。小川 (1876-1908) は、オオトラツグミ *Zoothera dauma major* やオーストンオオアカゲラ *Dendrocopos leucotos owstoni* などを新種 (現在は亜種) 発見した (Ogawa 1905)。また、オガワコマドリ *Luscinia svecica* は、小川が日本で初めて確認し、黒田長禮によって和名に小川の名がつけられた (黒田 1916)。このような偉業がありながら、32才という若さで没したためあまり知られていない。小川の標本群を含む東京帝国大学動物学教室の標本は、戦前に山階鳥

類研究所に移管された。また、小川関連の資料は、東京大学から 2002 年以降に数度にわたり寄贈された。その資料の中には小川が記載した標本台帳が含まれており、山階鳥類研究所に標本と台帳がセットで保管されるに至った。

小川が記載した標本台帳からは、採集年代が 1874~1908 年であること、台帳登録数が 1,142 件であったことが確認された。山階鳥類研究所標本データベースによる小川の標本群は 886 点であり、うち 854 点の標本が台帳に対応していた。台帳登録数の 74% の標本が現存していたことが確認された。収集してから 100 年以上経過していることから勘案すると、小川標本群の現存率は高いものと考えられた。

また、標本ラベルの記載により採集日や採集場所が不明確であった標本 350 点については、台帳との照合で情報を復元することができた。例えば、標本番号：Y10-31566 は、標本ラベルには「No. 943」が記載されているのみであったが(図 2)、台帳と照合したことで、「1906 年 10 月 26 日静岡県安倍郡長田村下川原」で採集されたことが判明した(図 3)。標本ラベルから情報が得られていた標本についても、台帳によって情報を担保することができた。

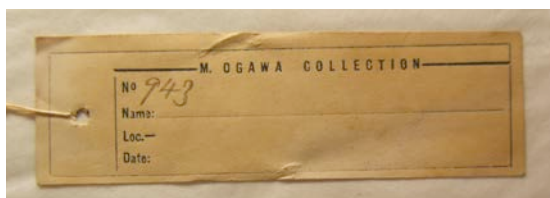


図 2 Y10-31566 の標本ラベル。

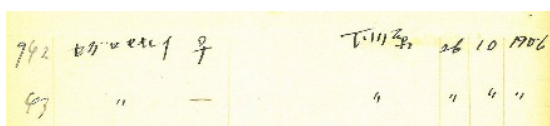


図 3 小川が記載した標本台帳。2 行目の「943」が Y10-31566 標本に対応する。

2) 東京帝室博物館旧蔵標本群

山階鳥類研究所には、学習院から移管された東京帝室博物館旧蔵の鳥類標本(以後、IH コレクションと表記)約 3,300 点が所蔵されている。「東京帝室博物館」(以後、帝室博物館と表記する)は現在の東京国立博物館であり、明治 33 (1900) 年から昭和 22 (1947) 年までの機関名称である。帝室博物館のラベル以外に、「東京教育博物館」や、海外の博物館の「Smithsonian Institution」、「National Museum Victoria」、「Museum D' Histoire Naturelle」などのラベルがみられることから、IH コレクションの成立においては、複雑な収集過程を経ていることが推測された。また、IH コレクションは海外産の標本が多数含まれ、標本ラベルから 1800 年

代半ばに採集された標本が多い。ラベルが記載されてから 100 年以上経過し、記載内容の読解が困難なもの、ラベルが汚損や破損で読めないものもある。山階鳥研標本データベースによる IH コレクションは 3,355 点であり、うち 9 割もの 3,116 点で採集年次が不明、あるいは確定できていなかった。IH コレクションは、標本情報のあやふやさが本標本群の課題であった。

a) 歴史的背景の解明

『東京国立博物館百年史』(東京国立博物館 1973) や所蔵品目録などの刊行されている文献のほか、国立科学博物館で所蔵されている標本台帳や東京国立博物館に所蔵されている史料を博捜し、IH コレクションの歴史的背景を考察すると次のようであった。

IH コレクションは東京国立博物館が設置された明治 5 年から、関東大震災直前の大正 12 年までに収集された標本群であった。IH コレクションは収集機関と期間によって 3 つの標本群に分けられた。以後、国立博物館の名称は時代によって変わるため、現在の名称で表記した。

① 明治 5 年から 22 年 (1872~1889 年) までの東京国立博物館標本群

② 明治 8 年から 23 年 (1875~1890 年) までの国立科学博物館標本群

明治 23 年に①と②の標本群が統合され、その後形成された

③ 明治 23 年から大正 12 年まで (1890~1923 年) の東京国立博物館標本群である。

明治 23 年以降に国立科学博物館が収集した自然史標本は、関東大震災で全て焼失した(国立科学博物館 1977)。これによって、明治から大正期にかけ 2 つの国立博物館が収集してきた IH コレクションは、現存する唯一のナショナルコレクションとなった。IH コレクションは、日本の博物館や鳥類学の草創期を知る上で重要な標本群であると評価された。

大正 12 年の関東大震災後の IH コレクションは、東京国立博物館(帝室博物館)天産部の廃止に伴い、国立科学博物館と学習院に移管された。『東京国立博物館百年史』などでは、国立科学博物館へ 331 点、学習院へ 86 点の鳥類標本が移管されたと記載されている。学習院から山階鳥類研究所へ移管された IH コレクションは約 3,300 点であり、矛盾が生じていた。

国立科学博物館所蔵の標本台帳や史料を調べるなかで、学習院へは国立科学博物館から貸し出される形で、実際には 3,300 点あまりの鳥類標本が追加で移管されていることがわかった。学習院に貸与されていた標本は、震災後の混乱もあり、返却の要請がされないままとなり、山階鳥研へ移管されるに至った

と推察された。

このほか、標本台帳からは、天産部廃止時点での標本数が4,004点であったことも確認され、その8割にあたる標本が山階鳥類研究所に現存していたことがわかった。山階鳥類研究所が所蔵する標本群は、IHコレクション全体を把握する上で基盤となる標本群であると評価できた。

標本群の歴史的背景がわかったことで、個々の標本にも情報を還元することが可能となった。標本群全体において、採集年次の下限は大正12年までに限定されたし、3つの標本群に分割して検討することで、それぞれの標本群ごとに採集年次が限定された。

例えば、採集年次が確定されていないYI0-42784トラツグミ *Z. dauma* は、標本台帳から「明治23年以前の国立科博博物館由来標本」であることが判明した。標本には「24/11/84」と記載があり(図4)、採集期間は明治23年以前に限定されることから、1884(明治17)年11月24日採集と確定することができた。このように、歴史的背景の解明によって、標本ラベルの記載を明確にし、個々の標本の学術的な価値を向上させることが可能となったのである。

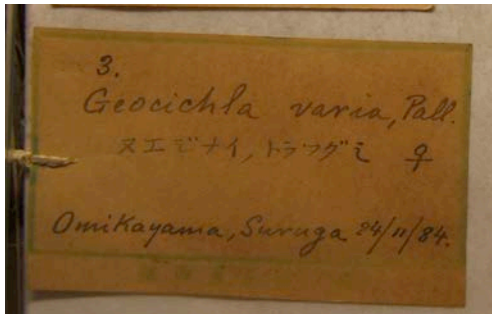


図4 YI0-42784トラツグミの標本ラベル。採集日が「24/11/84」と表記されている。

b) IHコレクションの海外産標本

3つの標本群のうち、①明治5～22年の東京国立博物館標本群と、②明治8～23年の国立科学博物館標本群は、海外の博物館から得られた標本が多かった。海外産標本は、筆記体で手書きされていることや地名になじみがないこともあり、ラベルの記載内容の解読が困難で、不明確な情報となっている。

そこで、海外の標本の中で最も標本数の多かった、米国スミソニアン博物館由来標本について調査した。同博物館から標本台帳のデジタル画像の提供を受け、採集日、採集地、採集目的、移管先などの台帳の記載内容を調査するとともに、スミソニアン博物館を訪問し、帝室博物館標本群と同じ時期に採集された標本ラベルの記載内容を調査した。

この調査では、移管元の標本台帳や関連標本と、IHコレクションの標本ラベルとの記載内容の比較によって、標本情報が明確になっただけでなく、追加や修正も見出され、多数

の標本で情報の復元が可能であることが明らかになった。

また、スミソニアン博物館由来標本群からは、今まで認識されていなかった北米産鳥類のタイプ標本が見つかった。西部開拓の際に採集された標本などもあり、歴史的背景を含めた標本の情報を明らかにする価値は十分にあると思われた。他の海外の博物館標本を含め、今後も継続して、旧蔵機関の標本台帳やフィールドノート類を調査していく予定である。

<引用文献>

国立科学博物館 1977. 国立科学博物館百年史. 国立科学博物館, 東京.

黒田長禮. 1916. 珍鳥ヲガワコマドリ. 動物学雑誌 28(338):24-26.

Ogawa, M. 1905. Notes on Mr. Alan Owston's Collection of Birds from the Islands lying between Kiushu and Formose. Annot. Zool. Japan 5(4).

Suzuki, T, Morioka, H. 2005. Distribution and Extinction of Ogasawara Island Honeyeater *Apalopteron familiare* on Chichijima, Ogasawara Islands. J. Yamashina Inst. Ornithol. 37:45-49.

東京国立博物館 1973. 東京国立博物館百年史. 東京国立博物館, 東京.

5. 主な発表論文等

[学会発表] (計4件)

学会発表

① 小林さやか・鶴見みや古. 小川三紀コレクションについて～明治期の鳥類標本～. 日本鳥学会 2012 年度大会. 2012 年 9 月 15-17 日. 東京大学本郷キャンパス.

② 鶴見みや古・小林さやか. 2012. 天逝の鳥類学者小川三紀～業績と寄贈されたコレクション～. 日本鳥学会 2012 年度大会. 2012 年 9 月 15-17 日. 東京大学本郷キャンパス.

③ 小林さやか・鶴見みや古・山崎剛史・加藤克. 山階鳥類研究所に所蔵される鳥類標本とコレクター達. 日本鳥学会 2013 年大会. 2013 年 9 月 13-16 日. 名城大学天白キャンパス.

④ 小林さやか・加藤 克. 明治・大正期のナショナルコレクション-帝室博物館鳥類標本コレクション. 日本鳥学会 2014 年度大会. 2014 年 8 月 22-25 日. 立教大学池袋キャンパス.

⑤ 小林さやか・加藤 克. 帝室博物館鳥類標本コレクションの海外産標本のルーツを探る. 日本鳥学会 2015 年度大会. 2015 年 9 月 21 日. 兵庫県立大学神戸商科キャンパス.

〔その他〕

研究発表会

①小林さやか. 帝室博物館コレクションの標本史解明による鳥学発展の可能性. 平成 26 年度山階鳥類研究所研究成果発表会. 2015 年 1 月 21 日. 東京大学農学部中島ホール.

一般講演

②小林さやか. 明治・大正期の鳥類標本-帝室博物館コレクション-. 第 45 回鳥博テーマトーク. 2015 年 3 月 14 日. 我孫子市鳥の博物館.

③小林さやか. 山階鳥研が所蔵する明治・大正期の鳥類標本. ジャパンバードフェスティバル 2015-山階鳥研見聞レクチャー7. 2015 年 10 月 31 日. 山階鳥類研究所.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 さやか (KOBAYASHI, Sayaka)

公益財団法人山階鳥類研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：70414092

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: